

2026
5月29日号212
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

あれからとこれから



副会長 遊 佐 雅 徳

2011年3月11日に発生した東日本大震災から、15年の歳月が流れた。あの日、地震と津波、そして福島第一原子力発電所の事故によって、福島県はこれまでに経験したことのない困難に直面した。多くの人々が故郷を離れ、地域のつながりが大きく揺らいだ。放射線という目に見えない不安と向き合いながら、日常を取り戻すための長い年月が続いたことを、私たちは決して忘れてはならない。

15年という節目を迎えた今、県内では復興の歩みが着実に積み重ねられている。新しい街並みが整い、帰還する人々や新たな挑戦を始める若い世代の姿も見られるようになった。一方で、人口減少や地域コミュニティの再生、風評への対応など、今なお多くの課題が残されているのも事実である。

そのような節目の年に、福島県立美術館では、世界的画家であるフィンセント・ファン・ゴッホの作品を紹介する展覧会が開催された。ゴッホの作品は、強い色彩と力強い筆致で、人間の内面や自然の生命力を表現している。彼の人生は決して平坦なものではなく、孤独や苦悩の中でもなお創作を続けた生き方は、多くの人に深い共感を与えてきた。その作品を福島の地で鑑賞することには、特別な意味があるように感じられる。震災によって多くの困難を経験してきた福島の人々にとって、芸術は単なる鑑賞の対象ではなく、心を癒やし、前を向く力を与えてくれる存在でもある。色彩豊かなゴッホの絵画を前にすると、私たちは苦しみの中にも確かに存在する希望や、人生の中で輝く瞬間を見出すことができるように思える。

これからの福島県にとって大切なのは、震災の経験を忘れずに語り継ぎながらも、その記憶に縛られるだけでなく、未来へ向かう力へと変えていくことである。復興とは終わりのあるものではなく、世代を超えて続いていく歩みである。だからこそ、私たちはこの地で暮らし、働き、学びながら、福島の魅力や可能性を次の世代へとつないでいかなければならない。

15年という時間は、長いようでいてまだ道半ばでもある。震災の記憶を胸に刻みながら、あれからとこれからについて考えてみたい。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 三輪 建太

会員の皆様、こんにちは。今回の「診療放射線科学科だより」では、本学科における就職活動の状況と、昨年度より新たに開設された大学院修士課程についてご紹介いたします。

本学科は2021年度に第1期生を迎え、2025年3月には初めての卒業生を送り出しました。また、2026年3月には第2期生も卒業し、それぞれが新たな進路へ進んでいます。第1期生の進路実績としては、県内病院9名、県外病院7名、福島県立医科大学大学院進学6名、他大学大学院進学2名となりました。福島県内の多くの医療機関の皆様へ施設見学や採用試験などご協力をいただき、心より感謝申し上げます。学生たちは、それぞれの希望に応じた進路を選択し、新たな一步を踏み出しました。また、大学院進学を選択した学生も多く、臨床だけでなく研究活動への関心の高まりも感じています。第2期生の進路実績としては、県内病院10名、県外病院6名、福島県立医科大学大学院進学5名、他大学大学院進学1名、企業2名、研究所1名となっており、未決定者なく全員が進路を決定することができました。また、第2期生は診療放射線技師国家試験において全国の国公立大学養成校の中で唯一の100%合格を達成することができました。福島県内の医療機関への就職希望者が多い一方で、大学院進学や企業就職を選択する学生も増えており、進路選択は年々多様化しています。特に近年は、画像診断技術や放射線治療技術の進歩、医療DXやAI技術の導入、核医学治療の発展などにより、診療放射線技師に求められる知識や技術はさらに高度化・多様化しています。そのような背景から、学生たちも自身の将来像を考えながら、早い段階から施設見学や情報収集へ積極的に取り組む姿が見られるようになりました。

本学科では、学生一人ひとりの希望や適性に応じた進路支援を行っています。就職担当教員を中心に、卒業研究指導教員とも連携しながら、施設見学、出願書類の準備、面接対策、合否結果の報告まで、学生が段階的に就職活動を進められるよう支援しています。特に施設見学は、学生が将来の職場を具体的に考える貴重な機会であると同時に、医療機関の皆様へ学生の姿勢や人柄を見ていただく大切な機会でもあります。そのため、見学や出願にあたっては、学生が社会人としての基本的なマナーを意識し、施設の皆様へ失礼のない行動を取れるよう指導しています。実際の臨床現場で活躍されている先生方から直接お話を伺う機会は、学生にとって非常に大きな刺激となっています。また、本学科では、県内施設をはじめ、複数の学生が見学を希望する可能性がある施設については、学生同士で情報を共有しながら、代表者を中心に調整する仕組みを設けています。これは、各施設へ個別の問い合わせが集中しないよう配慮するとともに、学生が責任を持って行動する力を身につけることも目的としています。出願時には、履歴書や志望理由書の確認、推薦書や証明書類の準備、内定後の報

告やお礼状の送付まで、教員が必要に応じて支援しています。学生には、内定後の辞退が施設の皆様に大きなご負担をおかけする可能性があることも伝え、進路選択における責任を自覚するよう指導しています。本学部の学生および卒業生のみが閲覧できる求人情報のHP（図1）を用意しておりますので、求人などございましたら是非こちらへ情報をお送りいただけますようお願いいたします。加えて、本学科では、就職活動や将来のキャリアパス形成を見据え、第1種放射線取扱主任者試験の受験も積極的に推進しています。近年は、全学生のうち、学部2年生の段階で7割弱、4年生の段階では9割程度の学生が合格を達成しており、学生たちは診療放射線技師国家試験だけでなく、放射線安全管理につながる専門知識の習得へ主体的に取り組んでいます。

次に、大学院についてご紹介いたします。2025年4月には福島県立医科大学大学院保健科学研究科修士課程が開設されました。大学院第1期生については、保健科学研究科定員16名に対して多くの応募があり、最終的に27名が入学しました。大学院第1期生では、

診療放射線科学領域にフルタイム大学院生6名に加え、本学附属病院や県外大学病院から2名の社会人大学院生も入学しており、臨床経験を持つ大学院生と学部卒業生がともに学ぶ環境が形成されています。なお、第2期生についても5名が進学しています。本研究科は、理学療法学、作業療法学、診療放射線科学、臨床検査学の4領域から構成されており、多職種連携や学際的な視点を重視した教育課程となっております。修士課程では、共通科目、専門基礎科目、各領域の特論・演習、特別研究を通して、専門知識だけでなく研究遂行能力を体系的に学ぶことができます（Table 1）。共通科目では「先端医療と多職種連携」「医療・研究倫理学」「保健



図1：本学部の学生および卒業生のみが見ることができる就職情報（求人情報）の画面です。求人情報の掲載をご希望の場合は「<https://fmu-hs.jp/request.html>」へアクセスしていただき、情報のご入力をお願いいたします。

Table 1. 大学院修士課程の診療放射線科学領域の科目

区分	科目名	配当年次	科目担当責任者
共通科目	先端医療と多職種連携	1後	三輪 建太
	医療・研究倫理学	1前	北爪しのぶ
	保健科学研究方法論	1前	北爪しのぶ
	医療統計学	1前	三輪 建太
	データサイエンス（画像系）	1後	高橋 規之
専門基礎科目	生体画像情報学	1前	田代 雅実
	分子情報解析学	1前	長谷川功紀
	放射線計測と防護	1前	福田 篤志
	放射線病態影響学	1前	佐藤 久志
診療放射線科学領域科目	医用画像情報工学特論	1前	高橋 規之
	医用画像科学特論	1前	久保 均
	核医学特論	1前	三輪 建太
	放射線治療科学特論	1前	加藤 貴弘
	医学物理特論	1前	加藤 貴弘
特別研究	特別研究	1後～2通	診療放射線科学領域専任教員（教授・准教授）

「医療・研究倫理学」「保健

科学研究方法論」などを通して、多職種連携や研究倫理、研究デザイン・研究遂行に必要な基礎力を体系的に学びます。また、画像系データサイエンスに関する内容も取り入れられており、医療DX時代に対応した教育を進めています。専門基礎科目としては、「生体画像情報学」「分子情報解析学」「放射線計測と防護」「放射線病態影響学」などを配置しています。さらに、診療放射線科学領域科目として、「医用画像情報工学」「医用画像科学」「核医科学」「放射線治療科学」「医学物理」など、各研究領域に応じた専門科目を履修できる体制となっています。また、社会人大学院生にも配慮し、夜間開講やZoomを活用した遠隔講義、長期履修制度など、働きながら学びやすい環境を整備しています。

診療放射線科学領域では、将来の臨床現場や研究分野を担う人材育成を見据えた教育・研究を推進しています。本領域では、診療放射線技師として必要な専門知識や技術を深めるだけでなく、「なぜその結果が得られるのか」を論理的に考え、臨床現場における課題解決へつなげる視点を養うことを重視しています。大学院第1期生の研究テーマとしては、AIを活用した画像解析・画像再構成技術、MRI定量解析、腫瘍イメージング、放射線治療技術、核医学治療dosimetry、認知症PET研究など、多岐にわたる研究へ取り組んでいます。また、附属病院や国内外の医療機関と連携しながら、実際の臨床課題を基盤とした研究を進めている点も特徴の一つです。大学院生には、研究活動を通して論理的思考力や問題解決能力を身につけるとともに、学会発表や論文作成を経験し、将来的に臨床・教育・研究の各分野で活躍できる高度専門職として成長することを期待しています。また、そのような経験は、臨床現場における課題を多角的に捉え、新しい技術や知識へ柔軟に対応する力の育成にもつながると考えています。

加えて、本大学院ではフルタイムで研究活動へ取り組む大学院生が多く在籍しているため、一部の大学院生は附属病院や近隣医療機関・健診施設において診療放射線技師業務のアルバイトを経験させていただいております。実際の臨床現場で診療放射線技師業務を経験できることは、大学院生にとって非常に大きな学びとなっており、診療放射線技師として求められる責任感や患者対応、多職種連携、検査・治療技術などを実践的に学ぶ貴重な機会となっています。また、日々の臨床経験を通して新たな課題意識や学びが得られることは、臨床研究へ取り組むモチベーションの維持にもつながっており、大学院生自身も改めて臨床現場の重要性を実感しているように感じます。さらに、そのような貴重な経験に加え、経済的な面でも大学院生にとって大きな支えとなっております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。(現在、多くの大学院生が在籍しておりますので、診療放射線技師業務等でお力添えできる機会がございましたら、ぜひお声がけいただければ幸いです。)

診療放射線技師を取り巻く環境は日々変化しています。そのような時代だからこそ、本学科では、臨床・教育・研究をバランスよく学び、地域医療へ貢献できる人材の育成を目指していきたいと考えています。また、現在は2027年4月の開学に向けて、博士課程の設置準備

も進めております。すでに文部科学省への設置申請書類を提出しており、本原稿が皆様のお手元に届く頃には、設置に関する一定の方向性が示されているものと思います。博士課程では、社会人大学院生を中心とした教育課程を計画しているほか、学士課程卒業後に優れた研究業績を有する医療現場の先生方については、修士課程を経ずに博士課程へ進学できる制度についても検討を進めています。

福島県立医科大学における診療放射線科学分野の教育・研究体制の整備も、学部・修士課程・博士課程を含めた完成年度に向け、いよいよ最終段階を迎えつつあります。今後とも、本学科の教育活動へご理解とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

～ 県会長 「オンレコ」 ～

会長 鈴木 雅博

- ①3月8日（日）ワクチン接種講習実習担当者養成講習会が行われました。当会としては、令和8・9年度を集中受講期間と設定し、福島県内（各地区）で講習会を実施していきます。
- 受講には、事前に「ワクチン筋注行為に関するオンデマンド講習」を済ませて頂く必要があります。
- ②3月24日（火）令和7年度福島県立医科大学学位記授与式・修了証書授与式（福島県立医科大学講堂）に来賓として参列、午後からは福島駅前キャンパスでの令和7年度診療放射線科学科学学位記伝達式にも招かれ卒業生に祝辞ならびに県技師会より学生表彰を行いました。
- ③4月24日（金）に令和7年度期末監査が事務所で行われました。
- ④医療被ばく低減施設認定の新規受け入れを再開しました。〔JART〕
- ⑤令和8年度のラダーコンテンツの視聴が開始されました。〔JART〕
- ⑥6月13日（土）に第89回公益社団法人日本診療放射線技師会定時総会が開催されます。何かご意見等がございましたら、県理事や地区協議会委員までお知らせください。
- ⑦令和8年春の叙勲にて新里前会長が瑞宝双光章を受章されました。
- ⑧JART側のシステム仕様上、個人情報変更（勤務先・苗字等の変更）の連絡が県に届かない状態になっています。改善要望はしておりますが、令和7年（2025年）4月以降にJARTにて個人情報変更をした方・今後変更される方は、お手数ですが事務局へ連絡をお願いいたします。

地区だより

県北地区

「県北地区協議会 冬季勉強会」開催

令和8年2月21日(土)14:30より、大原記念ホール 上町テラス2階にて「県北地区協議会 冬季勉強会」が開催されました。参加人数は33名でした。今回開催された勉強会の内容は以下のとおりです。

【会員発表・講演】

「CTの新装置・技術紹介」

1. 「Aquilion ONE/INSIGHT Editionがつくる新たな診断の可能性」

大原総合病院 佐原 和樹 先生

2. 「Philips CT5300 ～臨床に生きるAI技術～」

公立藤田総合病院 中島真理子 先生

3. 「Aquilion Prime SPの秘められた技術：Brain shuttle perfusion」

福島県立医科大学附属病院

齋藤 将輝 先生

【企業講演】

「DRLs2025の解説と医療現場での対応について」

株式会社A-Line 柳沢 正道 先生

会員発表・講演では、CT装置のAI・ディープラーニング画像再構成による高速化、高精細化、体動補正など、それぞれメーカーの技術紹介をしていただきました。また、実際の医療現場での臨床を含めた内容も併せて詳細に発表していただきました。

次に、DRLs2025についての企業講演がありました。内容としては、日本の医療被ばくの現状から始まり、線量管理の基本的な説明、日本の診断参考レベル2020年版と2025年版でどう変わったか、そして、線量管理の傾向やこれからどう対策すべきか、我々がやらなくてはならない必要なことなどをわかりやすく説明していただき、盛りだくさんの内容でした。

最後にクラウド型の線量管理システムについての説明がありました。クラウドだからできる機能(他施設との比較や参照)、コスト低減(専用端末不要、メンテナンスフリー)、保全性などの利点について詳しく説明がありました。

参加された方から、多くの質問があり、大変活気に満ちた勉強会となりました。

(阿部)

会津地区

「第115回会津画像研究会・第40回会津MRI研究会合同開催」

令和8年3月5日(木)に竹田総合病院にて第115回会津画像研究会および第40回会津MRI研究会が合同で開催され、Web参加16名、会場参加26名の合計42名の参加がありました。

演題1では「1.5TMRIに搭載されたZeroHe×AI応用技術について」と題し、富士フイルムメディカル株式会社の市川真仁氏より、ヘリウムを使用しない最新MRI装置について解説が行われました。また、AIを用いた自動撮影技術やアーチファクト低

減技術についても紹介され、最新のMRI技術への理解を深める内容となりました。

演題2では「骨軟部疾患MRIの撮り方」と題し、竹田総合病院放射線科の常陸真氏より、関節ごとの適切な撮影角度や疾患別のキー画像について、実際の画像を交えながら分かりやすく解説していただきました。日常検査にすぐに活かせる知識が多く、大変有意義な講演となりました。

今回の研究会で得られた知識を、今後の検査に活かしていきたいと感じました。

(小澤)



浜 通 り 地 区

「令和8年度 浜通り地区協議会 全体会」開催

令和8年4月25日(土)、相馬市総合福祉センターはまなす館2Fにおいて、令和8年度浜通り地区協議会全体会が開催されました。会員数177名に対し、委任状と会場参加者で143名と定足数に達しており、全体会が成立しております。全体会終了後、シーメンスヘルスケア株式会社より「MRIの基礎から応用へ」についてご講演いただきました。MRIの基礎的なことを再確認することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

(佐川)



編 集 後 記

新緑が日に日に深まり、風の心地よさに季節の移ろいを感じる5月となりました。新年度の慌ただしさも少し落ち着き、日々の暮らしや仕事に改めて向き合う時期かもしれません。

連休を過ぎ、これから暑さへ向かう季節となります。体調管理に気をつけながら、皆さまにとって実りある1年となりますように。

(増子)